

20 自然の中で感じたことを俳句で表現し、紹介しよう。

森の句会 (俳句でハイク)

俳句の世界の句会は厳しい評価がつきものです。しかし、句をよむことにすら抵抗があるかもしれない状態では、とにかく褒め合う句会があってもいいでしょう。

ねらい

感性をはたらかせることや表現することをいとわなくなる。他の人の感性や表現のよいところを積極的にみつけられるようになる。

達成目標

- ・自分が感性を使って発見したものを大切に思えるようになる。
- ・表現することへの抵抗感がなくなる。
- ・他の人のよいところに気づき、自らの学びにつなげることができるようになる。



導入

「今日は森で句会をして遊ぼうと思うのですが、みなさん、どんな俳句をご存じですか?」(子ども達に出してもらおう) 続いて森の句会についての説明をする(季語も五七五の字数も気にしなくていいこと、最後によいところを紹介しあうこと等)。

ふりかえり・わかちあい

一連の作業を実施して、感じたことや思ったことを出し合う。特に、表現することについて、プログラム実施前と実施後で感じ方が変わったかどうかについて焦点をあてるとよい。

本体

好きな場所、気に入った場所をさがし、しばらくゆっくりと身をおく。感じたことを言葉に表現してみる。ワークシートに俳句を書き込み、集合する。創作してきた俳句をみんなで紹介しあう。その際、他の人のいいところをみつけ発表しあうようにする。

まとめ

感じることや表現することは、自分の個性を表現することで、これをいとわなくなれば、自分の思ったことを伝えたり、他の人の表現を聞き入れることができるようになる。特に受け入れなくても、その存在は認める(聞き入れるという形で)ということの重要性をお話してもよい。

実施のポイント

限られた時間の中での作業なので、ゆっくり物事を考えたり感じたりする人は完成にいたらないかもしれない。しかし、完成することだけが目的ではないので、その間どのように過ごしていたか、どのような発見をしたか、などをとりあげてもよい。作品ができあがらなくても、「できるところまで」というコメントが救いになることがある。「なんでもいいや」的な作品を創る人に対しても適当にすまさないで、というニュアンスが伝わるかもしれない。

- ◆所要時間 30分
- ◆人数 8~40人
- ◆関連教科等 総合的な学習の時間、国語
- ◆焦点を当てる能力 感じる、表現する、書く、聞き入れる
- ◆準備するもの ワークシート、筆ペン
- ◆安全のポイント 活動の範囲を指示すること
集合の合図を明確に伝えること

評価の視点

自らの感性で発見があり、自らの言葉で表現できた時に上手に評価してあげるとよい。また、他の人の表現を上手に肯定できることも重要なので、その点についても個別にコメントできるとよい。

発展・応用

雨天時のプログラムにもなる。室内から窓の外を見て実施することもできる。

川嶋 直 氏のオリジナルプログラムをアレンジして掲載

森の句会 (俳句でハイク) 20

- ① 季語は入れなくてもかまいません。
- ② 五七五にこだわらなくてもかまいません。
- ③ 上手につくろうと思わなくてもいいです。(感じたことをそのまま書きましょう)

◆ じまんしたいところ

◆ 他の人からほめられたこと

◆ じまんしたいところ

◆ 他の人からほめられたこと

年 月 日 名前